2014 Study Abroad

Challenge
Your
World

留学ガイドブック

今だから出来る事をしよう。

日本大学国際関係学部　日本大学短期大学部(三島)

留学のことなら

http://goo.gl/QAWgy

国際教育センター Web サイト

TOEFL® 試験日程、留学説明会情報、留学体験談 etc.

アクセスには日本大学国際関係学部生専用メールアドレスとパスワードが必要です。

国際教育センター

Center for International Education and Language Development

～ はじめに ～

「留学」とは単なる語学の習得のみでなく、その国の歴史や文化・風土を肌で感じ、その世界に飛び込んでいくことです。そこで得たものは人生での大きな経験となり、人間力の向上に大いに役立つものです。留学のために半年から１年という中長期間の時間を確保することができるのも、この学生時代しかないのではないでしょうか。日本人の海外留学者数が減少している昨今、是非皆さんには積極的に留学にチャレンジしていただき、海外の大学で大いに学び、視野を広げ、帰国後もその貴重な留学経験を社会でしっかりと生かしていただきたいと願っております。

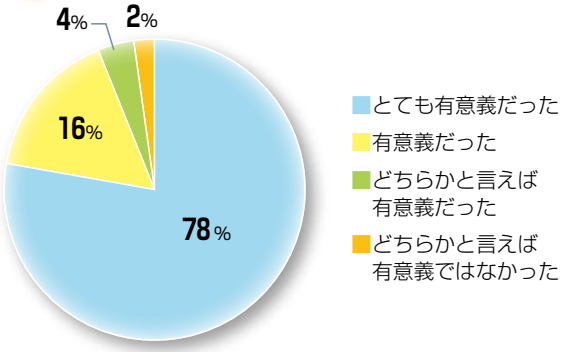
本学部では留学支援のための国際交流プログラムを用意しております。海外の大学等と覚書、合意書を取り交わし、学術、文化の交流を行い、１年間の交換留学をはじめ、半年間の中期留学も実施しています。休学することなく留学し、４年間で卒業するための単位認定や学費の優遇措置も整備されています。

また、約１か月間の短期海外研修プログラムや、日本や日本文化等を海外の小中学校で紹介する２カ月間のティーチング・インターンシップ・プログラムも用意しておりますので、あなたの目標に応じて参加してみてください。

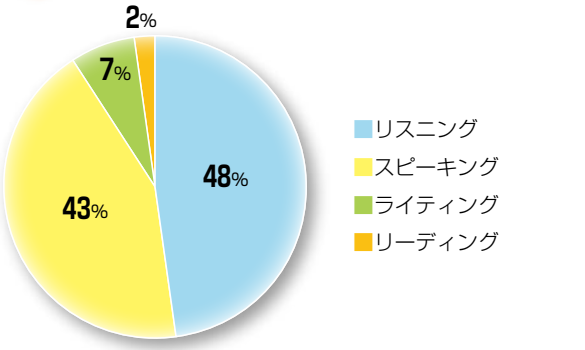
本冊子後半に掲載している昨年度留学した先輩方の報告書（国際交流体験記）と併せてご覧ください。

留学者帰国後アンケート結果

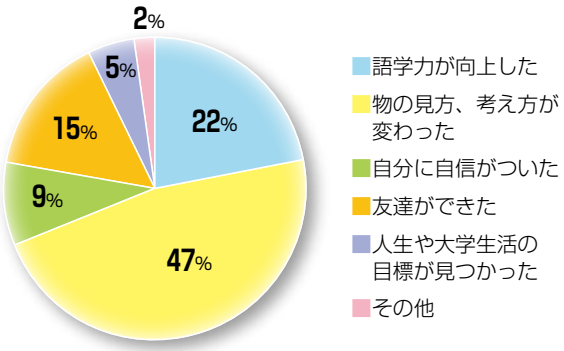
1. 留学は有意義でしたか



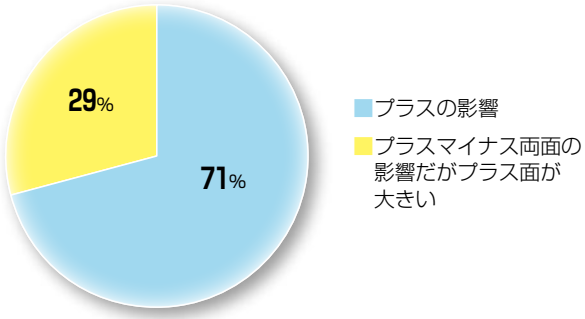
2. 語学力でもっとも向上した能力は？



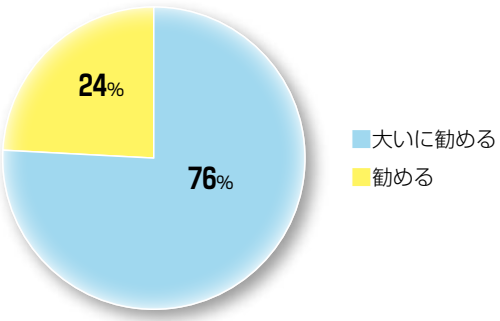
3. 留学してもっとも良かったことは？



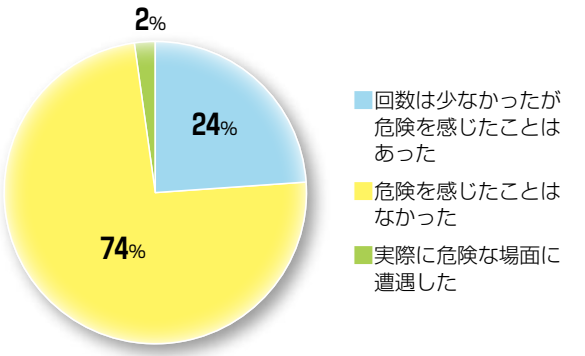
4. 留学は就職活動にどのような影響を与えると思いますか？



5. 後輩へ中期留学を勧めますか？



6. 留学期間中に身辺の危険を感じたことはありますか？



目　次

1 留学・短期海外研修について

◆プログラム一覧 4
◆派遣交換留学 4
◆中期留学 6
◆ティーチング・インターンシップ・プログラム 7
◆ジョイント・ディグリープログラム 8
◆認定留学 8
◆留学準備プログラム 9
◆短期海外語学研修 10
◆派遣交換留学・中期留学　大学紹介 11
◆新規プログラム 12

2 国際交流体験記の紹介について

◆交換留学（派遣）
学部派遣　同済大学（中国） 14
静宜大学（台湾） 15
本部派遣　鄭州大学（中国） 16
ストックホルム大学（スウェーデン） 17
◆中期留学
セント・ノーバート・カレッジ（アメリカ） 18
ゴア大学（インド） 19
北京大学国際関係学院（中国） 20
◆ティーチング・インターンシップ・プログラム
Saint Anthony's Catholic College（オーストラリア） 21
◆ジョイント・ディグリープログラム
ストーニーブルック大学（アメリカ） 22
◆認定留学
西カトリック大学附属語学学校（フランス） 23
◆柳川海外交流奨学金留学
ヨハネス・グーテンベルク大学（ドイツ） 24
◆短期海外語学研修
ストーニーブルック大学（アメリカ） 25
ハワイ大学（アメリカ） 26
トロント大学（カナダ） 27
WITT（ニュージーランド） 28
◆教員の交流
ハワイ大学…マリア・スチュアート助教授 29

1 留学・短期海外研修について

※各留学プログラムは、外務省の海外安全情報に基づき、国際紛争、テロ、災害、及び人為的、不慮不可抗力による事故等の発生により、渡航または現地での滞在に危険があると判断された時は、募集並びに派遣を中止または途中で帰国させる場合があります。

※各プログラムの募集概要は、事情により一部変更となることがあります。募集要項やガイダンス、掲示等で最新情報を確認してください。

プログラム一覧

	派遣交換留学		中期留学	ジョイント・ディグリープログラム	認定留学	留学準備プログラム	語学研修	ティーチング・インターンシップ・プログラム
	学部	本部						
掲載ページ	5～7	5	8	10	10	11	12	9
期　間	1年	1年	半年	2年間～	半年～2年	2～3週間	2～4週間	2か月 (事前研修半年)
派遣先学校数	8校＋ISEP加盟校	約20校	3校	1校	制限なし	1校	5校	7校
人数/校	1名	1～2名	15～20名	若干名	規定なし	15名 45名	20～30名	1～2名
言語	英、中、独他	英、中、独仏、韓	英、中	英	英、中、独仏、露、韓西、葡、他	英	英、中	英
単位認定	○	○	○	○	△ ※条件あり	○	○	○

派遣交換留学

派遣交換留学とは日本大学本部及び国際関係学部が交換留学に関する協定・覚書・合意書を締結している大学へ学生を派遣する制度です。留学期間は約1年間で、「日本大学本部派遣交換留学」と「国際関係学部派遣交換留学」の2種類があります。

大学・学部の代表として選ばれた者だけが交換留学生として提携校に派遣されます。代表者であるため、語学力だけでなく全般的な学力や責任のある行動や態度が求められることになりますが、一方では、提携校の授業料は免除となり、その他奨学金の受給もあります。留学中は現地の学生とともに正規の授業を受けることもでき（※1）、大学・学部と提携校を結ぶいわば友好親善大使として留学期間を過ごすことにもなります。派遣交換留学生だけに与えられたすばらしい機会です。

日本大学本部派遣交換留学の詳細は、日本大学本部のホームページ（※2）で確認してください。国際関係学部派遣交換留学の詳細については次頁を参照してください。

その他、ISEP プログラム（※3）を利用し、提携校以外の ISEP 加盟校へ交換留学生として留学できる場合もあります。

※1　受入先大学が求める語学的な条件が必要になる場合があります。

※2　日本大学本部派遣交換留学についての詳細
(http://www.nihon-u.ac.jp/international/study_abroad/)

※3　ISEP(International Student Exchange Program) について (http://www.isep.org/)
ISEP とは米国で創設された米国内外の加盟校間で学生留学を推進する非営利法人の全世界的な大学連合組織（コンソーシアム）です。
ISEP を仲介しての交換留学であるため、日本大学本部派遣・学部派遣交換留学とは仕組みが異なります。詳しくは、国際教育センターにお問い合わせください。

平成27年度募集概要

冬出発（留学期間：通年）
夏 / 秋出発（留学期間：後期から翌年度前期まで）
冬 / 夏出発

		英語圏・他						ドイツ語圏	中国語圏	
大学名称		マッコーリー大学 Macquarie University	WITT Western Institute of Technology at Taranaki	ISEP 加盟校	セント・ノーバート・カレッジ St. Norbert College	ニューヨーク州立ストーニーブルック大学 Stony Brook University	モンタナ州立大学 Montana State University	ヨハネス・グーテンベルク大学 Johannes GutenBerg Universität Mainz	同済大学	静宜大学
所在地 URL		オーストラリア ニューサウスウェルズ州 http://www.mq.edu.au/	ニュージーランド ニュープリマス市 http://www.witt.ac.nz/	50か国　約340校加盟 http://www.isep.com	アメリカ ウィスコンシン州 http://www.snc.edu/	アメリカ ニューヨーク州 http://www.stonybrook.edu/	アメリカ モンタナ州 http://www.montana.edu	ドイツ プファルツ州 http://www.uni-mainz.de	中国 上海市 http://www.tongji.com.cn	台湾 台中県 http://www.pu.edu.tw/
渡航期間（留学期間）		平成27年２月～平成27年12月（平成27年度前期～平成27年度後期）		平成27年８月／９月・10月（ドイツ）～平成28年６月／７月（平成27年度後期～平成28年度前期）						
募集人数		２名	１名	複数名	各校１名				２名	２名
応募要件	TOEFL®-ITP	—	500点以上	500点以上 *	550点以上		530点以上	—	—	—
	TOEFL®-iBT	88点以上（PBT 換算570点）	61点以上	61点以上 *	79点以上		71点以上	—	—	—
	GPA	2.8 以上	2.8 以上	2.8 以上 *	2.8 以上		3.0 以上	3.0 以上	2.8 以上	
	その他	—	—	*ISEP への出願時には、各志望先大学の提示する受入れ条件を満たしていることが求められる。	—	—	—	ドイツ語を履修済み、または履修中であること	中国語及び中国文化に一定の関心を有すること	
応募資格		①日本大学国際関係学部に在籍する学業成績優秀な学生で、留学期間中も引き続き在籍できる者 ②派遣先大学の派遣条件を満たした者								
奨学金		日本大学三島後援会海外交流奨学金給付規定による奨学金支給制度有り						柳川海外交流奨学基金による奨学金を給付する	日本大学三島後援会海外交流奨学金給付規定による奨学金支給制度有り	
宿舎		大学の学生寮							大学の留学生寮	大学の学生寮
単位認定		留学中に修得した単位は、所定の手続きを経て、その科目の講義内容・履修時間数・成績等を勘案した上、教授会の議を経て、本学部の修得単位として認定する。								
申込手続		以下書類（各１通）を揃え、応募締切日までに国際教育センターへ提出								
		〈英語圏・他〉 ①派遣交換留学申込書 ②パスポートの写し ③志望動機　（英文Ａ４用紙２枚以内）（ISEP 英語圏以外の場合は志望国言語にて作成） ④ TOEFL® スコアの写し（ITP レベルⅡは不可、２年以内に受験したスコアに限る）						〈ドイツ語圏〉 ①派遣交換留学申込書 ②パスポートの写し ③志望動機（和文Ａ４用紙２ページ以内、及び半ページのドイツ語要約文）	〈中国語圏〉 ①派遣交換留学申込書 ②パスポートの写し ③志望動機　（和文でＡ４用紙２枚以内）	
募集ガイダンス		４月／10月（予定）　詳細は U.P.※／掲示参照 ※ 選考方法，単位認定等について詳細を説明するので、希望者は必ず参加すること								
応募締切		平成26年５月16日㈮　詳細は U.P.※／掲示参照		平成26年11月下旬　詳細は U.P.※／掲示参照						

（各項の内容は変更される場合があります。最新情報は、国際教育センター Web サイト https://sites.google.com/a/g.nihon-u.ac.jp/cield/ を参照してください。
なおアクセスには本学生専用メールアドレスとパスワードが必要です。）

※TOEFL® スコアの有効期限は２年間です。提出スコアの取得日に注意してください。
※U.P. とは「UNIVERSAL PASSPORT EX」の略。

※ 留学費用について

〈主な費用〉

①派遣先大学授業料：	全額免除
②留学中の日本大学国際関係学部留学在籍料：	120,000円
③派遣先大学の寮費・食費・テキスト代：	自己負担
④渡航費用（往復航空券、査証申請費用、健康診断費用等）：	自己負担
⑤海外旅行保険費用及び派遣先大学指定保険費用：	自己負担
⑥派遣先大学留学中の滞在費：	自己負担

〈その他〉
※ その他、健康診断料金、予防接種費用等がかかる場合がある。
※ ISEP の場合、寮費／食費として906,000円（平成25年度実績）を本学部に収める代わりに、現地での同費用が全額免除となる。

〈アメリカ・ストーニーブルック大学の例〉

寮費・食費	$11,370
テキスト代	$840
ＳＢＵ保険	$1,100
計	$13,310

備考：生活費その他　¥470,000（目安）

〈ドイツ・ヨハネス・グーテンベルク大学の例〉

寮費	€2,800
食費	€1,000
保険	€770
計	€4,570

〈中国語圏・静宜大学（台湾）の例〉

寮費	NT$24,000
食費	NT$60,000
保険	NT$2,400
活動諸経費	NT$3,000
計	NT$89,400

備考：生活費その他　￥200,000（目安）

※上記費用は、平成25年度実績を基に算出。変更となる可能性がある。
※上記費用の他に、往復渡航費用、パスポート申請料金、査証申請料金、海外留学傷害保険、健康診断料金、予防接種費用等の諸費用がかかる。

中　期　留　学

中期留学とは国際関係学部が主催する約半年間の留学プログラムで、国際関係学部と提携している下記大学の付属語学学校等（英語圏及び中国語圏）へ留学します。英語圏では、TOEFL400点以上なら参加できるチャンスがあり、語学＋α（一般科目も受講可能）を学べ、現地での成績を元に単位認定がしやすい魅力があります。

留学期間は派遣大学の学生寮に滞在することになり、安心した留学環境において、勉学に励むことができます。まずは約半年間の中期留学で語学力をスキルアップさせ、帰国後、派遣交換留学に挑戦することも可能です。世界の一流大学キャンパスで半年間留学できる貴重な機会です。

平成26年度 募集概要

（各項の内容は変更される場合があります。最新情報は、国際教育センター Web サイト https://sites.google.com/a/g.nihon-u.ac.jp/cield/ を参照してください。なおアクセスには本学生専用メールアドレスとパスワードが必要です。）

大学名称	セント・ノーバート・カレッジ	ゴア大学	北京大学国際関係学院
所在地 URL	アメリカ　ウィスコンシン州 http://www.snc.edu/	インド　ゴア州 http://www.unigoa.ac.in/	中国　北京市 http://www.pku.edu.cn/
派遣期間	平成26年８月中旬～平成27年３月下旬	平成26年９月中旬～平成27年２月下旬	平成27年２月下旬～平成27年６月中旬 （※平成27年度留学扱い）
募集人数	20名程度	12名程度	20名
応募資格 留学時学年	２年～３年		３年～４年
応募資格 語学能力、検定試験等	TOEFL-ITP400点以上、-iBT32点以上	TOEFL-ITP400点以上、-iBT32点以上 ※留学出発までにTOEFL®-ITP450点以上を取得することを目標とする。	中国語履修実績のある学生
研修内容	① 集中英語コース（ESL）及びCIEコース*　対象者：TOEFL® ITPのスコアが400点以上550点未満の学生 ② 秋学期正規課程授業履修及びCIEコース*（正規課程授業料は全額免除）　対象者：TOEFL®-ITPのスコアが 550（iBT79）点以上の学生 *CIEコース：Center for International Education 日大生用に開講する講義形式の授業で1月から3月までの9週間行われる。政治・経済・文学・異文化コミュニケーション	オリエンテーション及び英語強化トレーニング（計150時間） 文化・文学・歴史・哲学（計120時間） 政治・経済・経営（計150時間） ジェンダー・移民・食物・観光等の社会問題（計120時間） インド国内研修旅行 （２回に分け計８泊10日） レポート作成・発表	国際関係とグローバル化 国際交流と異文化コミュニケーション ソフトパワーと国家 中英バイリンガル文献購読 国際問題研究 中英バイリンガル会話 （各計60時間）
留学費用（前年度参考）	1$≒105円で計算（平成26年１月現在）		１元≒18円で計算（平成26年１月現在）
	①SNC費用　約1,400,000円 内訳 ESLコース授業料　$4,000 CIEコース授業料　$2,000 寮費・食費・他　$7,330	②SNC費用　約980,000円 内訳 秋学期授業料 全額免除 CIEコース授業料　$2,000 寮費・食費・他　$7,330	GOA大学費用　約683,000円 内訳 授業料　$3,800 寮費・食費・他　$2,700	北京大学費用　約483,000円 内訳 授業料　13,600元 寮費・食費・他　13,200元
	旅行・ビザ費用　約200,000円	旅行・ビザ費用　約200,000円	旅行・ビザ費用　約160,000円	旅行・ビザ費用　約100,000円
	合　計　約1,600,000円	合　計　約1,180,000円	合　計　約843,000円	合　計　約583,000円
	上記以外に海外旅行傷害保険料、現地でのおこづかい等が必要となる（約10万円～約20万円）			
宿舎	セントノーバート大学　学生寮	ゴア大学　ゲストハウス	北京大学　学生寮	
単位認定	「単位認定科目一覧」に基づき単位互換可能と認められた科目の範囲で講義内容・履修時間数・成績等を勘案した上、本学部の修得単位として認定する。			
申込手続	以下書類（各１通）を揃え，応募締切日までに国際教育センターへ提出 ①中期留学申込書（国際教育センターにて受領） ②パスポートの写し ③TOEFL®のスコアの写し（ITPレベルⅡは不可、２年以内に受験したスコアに限る）			①中期留学申込書 （国際教育センターにて受領） ②パスポートの写し
募集ガイダンス	平成26年４月上旬　詳細はU.P.※／掲示参照			平成26年10月頃 詳細はU.P.※／掲示参照
	※選考方法、単位認定等について詳細を説明するので、希望者は必ず参加すること			
応募締切	平成26年４月21日（月）　詳細はU.P.※／掲示参照			平成26年10月下旬 詳細はU.P.※／掲示参照

※TOEFL® スコアの有効期限は２年間です。提出スコアの取得日に注意してください。
※U.P. とは「UNIVERSAL PASSPORT EX」の略。

ティーチング・インターンシップ・プログラム

国際交流の基本的目的のひとつに、国際的な状況下で実践家として活動でき、異なった文化価値が理解でき、あらゆる状況に柔軟に対応できる個人を養成する点があります。ティーチング･インターンシップ･プログラムは、この能力を学生たちに身に付けさせるために計画・実行されています。

プログラムは、学内事前研修と現地研修の２つから構成されています。学内事前研修は、現地の生徒に対する教授法を学び、日本文化や日本語を英語で説明できる能力を養成することに主眼を置いています。また、現地の文化的特徴なども学びます。

約８週間の現地研修では、本学と提携している海外の小・中学校（一部高校も含む）へ Teaching Intern 生として派遣され現地の生徒達に日本の言葉の初歩及び日本の文化を英語を使って教えます。日本文化や日本語を英語で教えるプロセスを通して、英語運用能力やコミュニケーション能力を養成し、更に、現地地域文化やその根底にある文化価値を実際の生活体験や教育体験から学び、柔軟さをもった価値観を育成します。

（前年度派遣者数：９名）

平成26年度 募集概要

（各項の内容は変更される場合があります。最新情報は、国際教育センター Web サイト https://sites.google.com/a/g.nihon-u.ac.jp/cield/ を参照してください。なおアクセスには本学生専用メールアドレスとパスワードが必要です。）

派遣先（昨年度の例）	Discovery School of Lancaster	Devon Intermediate School Highlands Intermediate School West End School	Belgian Gardens State School Ryan Catholic College Saint Anthony's Catholic College
所在地	アメリカ サウスカロライナ州	ニュージーランド ニュープリマス市	オーストラリア タウンズビル市
派遣期間	平成27年２月～平成27年３月（約８週間）		
募集人数	若干名（各校１～２名）		
応募資格	①日本大学国際関係学部に在籍する学業成績優秀な２年生以上で、留学期間中も引き続き在籍できる者 ②平成24年６月以降に受験した TOEFL® のスコアを提出できる者 ③教職課程または、日本語教員養成講座を履修していることが望ましい		
派遣費用（前年度参考）	オーストラリアへ派遣された例 ・ホストファミリー手配及び費用（８週間） ￥185,000 ・往復航空券・空港税・燃油サーチャージ他 ￥100,000 ・海外旅行保険 ￥ 30,000 ・お小遣い ￥ 40,000 ￥355,000 ・日本大学三島後援会海外交流奨学金給付規定により奨学金を支給する。 ・期間中の滞在費は全て個人負担とする。		
宿舎	現地の家庭にホームステイ		
単位認定	最終選考に合格し，インターンシップ派遣生として所定の時間数（事前研修及び現地実習）を満たした場合「ティーチング・インターンシップ」の単位が認定される。（希望者のみ）		
申込手続	以下書類（各１通）を揃え、応募締切日までに国際教育センターへ提出 ①ティーチング・インターンシップ・プログラム申込書 ②パスポートの写し ③志望動機（Word を使用し英文で A４ 用紙２枚以内） ④ TOEFL® スコアの写し（ITP レベルⅡは不可、２年以内に受験したスコアに限る）		
募集ガイダンス	４月初旬予定 詳細は U.P.※／掲示参照 ※ 選考方法，単位認定等について詳細を説明するので，希望者は必ず参加すること		
応募締切	平成26年５月16日㈮　詳細は U.P.※／掲示参照		

※TOEFL® スコアの有効期限は２年間です。提出スコアの取得日に注意してください。
※U.P. とは「UNIVERSAL PASSPORT EX」の略。

ジョイント・ディグリープログラム

ジョイント・ディグリープログラムとは、国際関係学部に在籍する学生が 3 年次後期より 2 年間アメリカのニューヨーク州立ストーニーブルック大学で 2 年間修学し、最短 4 年半で双方大学の学士号を取得することを目的としたプログラムです。

応募者は留学時に 3 年次の学生であることが条件で、2 年次終了時点で GPA3.25以上の学業成績保有者であり、申込期限までに TOEFL®-iBT79点以上の英語能力を有することが必要です。

留学先であるニューヨーク州立ストーニーブルック大学より入学許可を得た学生は国際教育センターを通じ速やかに所定の留学手続を取ると共に，留学出発までに留学アドバイザーと面談し留学中の履修計画につき十分に相談してください。

応募締切は12月上旬の予定。派遣期間は翌年 8 月より最短で 2 年間です。選考方法等の詳細は国際教育センターにて確認してください。

認　定　留　学

認定留学では、国際関係学部に在籍する者が、以下の条件を満たし、事前に必要書類を提出して学部の承認を得た場合は、休学することなく海外の大学に留学することができます。

（条件１）外国の大学とは，外国における正規の高等教育機関で学位授与権を有するもの，またはその付属の教育機関を指します

（条件２）当該外国の大学で学修することが，教育上有益であると認められることが必要です。

（条件３）当該学生が外国での教育を受け得るだけの能力を有していることが必要です。

留学を希望する者は、国際教育センターで認定留学に関する手続きの説明を受けて、各大学等への入学審査等の時間も考慮し、留学希望時期よりも最低でも半年前からは準備を始めるようにしてください。

留学先の入学審査等を済ませた後、最終的に国際関係学部へ提出する書類提出期限は、前期からの留学の場合は 1 月15日、後期からの留学の場合は 6 月20日です。詳細は国際教育センターにて確認してください。

留 学 準 備 プ ロ グ ラ ム

本学の学術交流協定校であるハワイ大学マノア校と共同開催する英語学習プログラムです。米連邦政府教育長官認定の英語教育資格認定団体 CEA より優秀校として認定を受けた同校のプログラムは、スピーキング、コミュニケーション能力向上に力を入れていることで知られています。英語圏の留学（中期留学、派遣交換留学）を目指す方はもちろん、会話力を中心とした英語力を向上させたい方にもお勧めします。

夏期講座では先生と学生アシスタントをハワイから招き、三島にいながらにしてハワイで行われているプログラムと同等の 2 週間の英語集中講座を受講できます。また春期講座ではハワイ大学マノア校の学生寮に 3 週間滞在し、英語圏の留学に必須とされるアカデミック・イングリッシュを学びながら、アメリカのキャンパスライフを疑似体験することができます。なお、夏、春どちらのプログラムにも本学教員が担当する約 4 か月間の事前講習（授業回数は10回程度）が含まれています。

平 成 26 年 度 募 集 概 要

（各項の内容は変更される場合があります。最新情報は、国際教育センター Web サイト https://sites.google.com/a/g.nihon-u.ac.jp/cield/ を参照してください。なおアクセスには本学生専用メールアドレスとパスワードが必要です。）

プログラム名称	ハワイ大学夏期英語集中講座	ハワイ大学春期アカデミック・イングリッシュ講座
研修場所	国際関係学部　三島キャンパス	ハワイ大学　マノア校
プログラム期間	事前講習：平成26年 5 月～ 7 月（計10回程度） 講習：平成26年 8 月初旬から 2 週間（日曜日除く）	事前講習：平成26年10月～12月（計10回程度） 講習：平成27年 2 月初旬から 3 週間
募集人数	45名	15名
応募資格	国際関係学部・短期大学部に所属する学生、および日大三島高校生	①国際関係学部1年次から 4 年次に所属する学生 ② TOEFL® スコアを提出できる者
研修内容	午前3時間、午後 2 時間の計 5 時間、 3 クラスに分かれて10日間の授業を行う。加えて、ハワイ文化等を学ぶ交流プログラムを 1 日1.5時間、9 日間にわたり行う。	月曜から金曜まで 1 日 4 時間の授業を15日間実施する。
費用（前年度参考）	45,000円	約320,000円 （海外旅行傷害保険加入料，昼食代などは含みません。）
宿舎		大学の学生寮
単位認定	単位認定希望者は、所定の条件を満たすことを条件にハワイ大学から授与される修了証書に単位認定申請書（※）を添えて国際教育センターに提出する。（※1 年生は「英語Ⅲ」または「英語Ⅳ」。2－4 年生は「英語Ⅴ」または「英語Ⅵ」。）	4 年生を除く単位認定希望者は、所定の条件を満たすことを条件にハワイ大学から授与される修了証書に単位認定申請書（※）を添えて国際教育センターに提出する。（※ 対象科目の「英語Ⅶ」または「英語Ⅷ」のどちらかを選択する。ただし 4 年生は除く。）
申込手続	国際教育センター Web サイト https://sites.google.com/a/g.nihon-u.ac.jp/cield/ を参照してください。 なおアクセスには本学生専用メールアドレスとパスワードが必要です。	
募集ガイダンス	4 月以降（予定）　詳細は U.P.※／掲示参照	5 月以降（予定）　詳細は U.P.※／掲示参照
応募締切	平成26年 4 月22日㈫	9 月中旬（予定）

※TOEFL® スコアの有効期限は 2 年間です。提出スコアの取得日に注意してください。
※U.P. とは「UNIVERSAL PASSPORT EX」の略。

短 期 海 外 語 学 研 修

短期海外語学研修とは、語学の実践力を向上させる目的で、日本大学及び国際関係学部・短期大学部が外国の大学などで実施する約１か月程度の短期海外研修に参加するプログラムです。実践的なスピーキングやリーディングなどの力を養いながら語学力を向上させることはもちろん、その国の生活文化に直接触れられる機会となります。

日本大学本部主催の短期海外研修の詳細は、日本大学本部のホームページ
(http://www.nihon-u.ac.jp/international/study_abroad/summer_school/)
で確認してください。

国際関係学部及び短期大学部主催の短期海外語学研修については下記を参照してください。

平 成26年 度 募 集 概 要

（各項の内容は変更になる場合があります。）

大学名称	ニューヨーク州立 ストーニーブルック大学	WITT	北京大学 国際関係学院	TIEC	（短期大学部主催） ハワイ大学
所在地 URL	アメリカ ニューヨーク州 http://www.sunysb.edu/	ニュージーランド ニュープリマス市 http://www.witt.ac.nz/	中国 北京市 http://www.pku.edu.cn/	アメリカ テキサス州 http://www.tiec.org/	アメリカ ハワイ州 http://manoa.hawaii.edu/
研修期間 （予定）	平成26年８月２日（土）～ ８月17日（日）（16日間）	平成26年８月18日（月）～ ９月16日（火）（30日間）	平成26年８月４日（月）～ ８月27日（水）（24日間）	平成27年２月７日（土）～ ３月８日（日）（30日間）	平成26年8月3日（日）～ 8月20日（水）（18日間）
授業日程	９：00～15：50	８：30～15：00	①８：30～11：30語学研修 ②14：00～17：00自由研修	①８：30～12：30 15：00～17：00 ②８：30～12：30 PM：アクティビティー	９：00～15：30
募集人数	20名程度	20名程度	20名程度	30名程度	20名程度
	（最少開催人数10名）				
応募資格	国際関係学部・短期大学部（三島）・経済学部の在学生	国際関係学部・短期大学部（三島）の在学生			
研修費用 （前年度参考）	約470,000円 語学研修費、宿泊費、食費、旅行・ビザ費用など	約590,000円 語学研修費、宿泊費、食費、旅行・ビザ費用など	約240,000円 （平成24年度参考） 語学研修費、宿泊費、食費、旅行・ビザ費用など	約490,000円 語学研修費、宿泊費、食費、旅行・ビザ費用など	約350,000円 語学研修費、宿泊費、食費、旅行・ビザ費用など
	上記以外に海外旅行傷害保険、現地でのおこづかい等が必要となる				
宿　　舎	大学の学生寮	ホームステイ	大学の留学生寮	ホームステイ	大学の学生寮
単位認定	「国際交流（外国語実習）」（国際関係学部）又は「海外語学実習」（短期大学部）の2単位を修得できる。 但し、本人による申請に基づく履修登録を行うことが必要				「海外語学実習」（短期大学部）の２単位を修得できる。但し、本人による申請に基づく履修登録を行うことが必要
申込手続	以下書類を揃え、応募締切日までに国際教育センターへ提出 ①参加申込書 ②海外研修について誓約書 ③医療同意書				
募集ガイダンス	４月／２回　５月／２回（予定） 詳細はU.P.※／掲示参照			４月／２回　９月／１回 10月／３回（予定） 詳細はU.P.※／掲示参照	４月／２回 ５月／２回（予定） 詳細はU.P.※／掲示参照
応募締切	５月末日（予定） 詳細はU.P.※／掲示参照			10月末日（予定） 詳細はU.P.※／掲示参照	５月末日（予定） 詳細はU.P.※／掲示参照

※U.P. とは「UNIVERSAL PASSPORT EX」の略。

派遣交換留学・中期留学　大学紹介

セント・ノーバート・カレッジ 学部派遣交換留学 中期留学

1898年に創立されたローマカトリック系の４年制大学で、総学生数は約2,000人の小規模大学である。全学生の約７割がウィスコンシン州内から来ている典型的な地域密着型の大学で、留学生の全体における割合は３％と少ない。しかし、小規模ながらも総合大学であり、アメリカ中西部の私立大学の中ではトップ３にランキングされており、講義の内容、教員陣、施設等は充実している。リベラルアーツ、科学、ビジネス、教育学の分野で学位を提供しており、特に経営学、国際ビジネス学、コミュニケーション、数学、科学、生物学の専攻は人気が高い。

ニューヨーク州立ストーニーブルック大学 学部派遣交換留学 ジョイント・ディグリープログラム

ニューヨーク市より東に100km程の距離にあるロングアイランドにあり、1,1100エーカー（約135万坪）の広大なキャンパスに22,000名の学生が学んでいる。学部としては、人文・科学部、工学・応用科学部、医学部など10学部を擁している。ストーニーブルック大学は、1957年に創立された比較的新しい州立大学であるが、２名のノーベル賞受賞者をはじめとして、広範囲の学問分野において世界的に著名な研究者、学者を数多く抱えており、アメリカの公立大学の中でもトップクラスの大学に数えられている。

モンタナ州立大学 学部派遣交換留学

ロッキー山脈を望む標高1,500メートルのモンタナ州ボーズマン市にある学生数12,000名を擁するモンタナ州最大の総合大学である。国より受け取る年間の研究助成費は１億ドルを超え、全米的にも高い評価を得ているリサーチ大学のひとつであり、リサーチ大学としては2006年カーネギー財団によりエール大学、ハーバード大学，マサチューセッツ工科大学に肩を並べるトップ・レベルの大学として格付けされている。広大なキャンパスには文理学部、ビジネス学部、工学部、農学部等８学部の校舎が点在している。

マッコーリー大学 学部派遣交換留学

シドニーから北西に18キロ、住宅地とテクノロジーパークとの間に広大なキャンパスが広がっている。1967年に創立され、ニューサウスウェルズ州の中でも大規模な大学のひとつであり、特別に学部は設置されておらず、大学全体がひとつの学部として機能するシステムになっている。また、マッコーリー大学は留学生を多数受け入れる大学としても知られ、その数は7,000人にも上る。マッコーリー大学のポリシーは、学生と講師ができるだけ多くのコミュニケーションをもつこととしており、あちこちで学生と教授が気軽に話をしている光景が見られる。

WITT(Western Institute of Technology at Taranaki 学部派遣交換留学

ニュージーランド北島のウェストコースト、オークランドとウェリントンの中間に位置するニュープリマス市にある国立総合専門学校で、学術、職業訓練の両方のプログラムを提供する高等教育機関である。 学生数は約5,000人おり、アート＆メディア、ビジネス＆コンピューター、看護＆健康、マオリ研究などの７つの学部があり、各学部は幅広いコースを提供している。ニュープリマス市は、安全・クリーンな都市で、勉学から離れた余暇時間には、スキー、サーフィン、釣りまたは数々の映画の撮影がされた壮大な自然環境を楽しむことができる。

ゴア大学 中期留学

インドの西海岸に位置するゴア州にある大学で、起源は古く、ボンベイ大学大学院センターが設立された1966年までさかのぼる。1985年に社会･経済的な発展を後押しする役割を期待されながら、ゴア大学はボンベイ大学大学院研究センターの協力の下、創立された。以来、着実に規模を拡大し、現在は24の大学院研究科を有している。教職員、男女学生、特別研究員のための宿泊施設をもち、キャンパス内には銀行、ゲストハウス、郵便局、ショッピングモール等の施設もある。

北京大学国際関係学院 中期留学

1898年に創設された中国初の国立総合大学。1912年に「京師大学堂」から「北京大学」に改称、2000年に北京医科大学と合併。中国名門大学の一つで、特に人文系、基礎理科系においては中国最高峰と言われている。外国留学生に対する中国語教育にも力をいれている。キャンパス内には留学生宿舎、ゲストハウスをはじめ、郵便局、銀行、スーパーマーケット、書店、売店などもあり、学校全体が１つの都市機能を有している。また大学や研究機関、ハイテク企業が多く集まる中国のシリコンバレーとも呼ばれる中関村に位置し、落ち着いた環境の中で留学生活を送ることができる。

同済大学 学部派遣交換留学

同済大学（Tongji University）は1907年に同済大学の前身となる上海徳文医学堂として開学し、1927年に現在の同済大学となった。中国の重点大学の中で最も古い伝統ある大学の一つである。現在では、工学、理学、経営学、医学、経済学、文学、法学、哲学、芸術学、教育学の10の学問領域を扱う学部と大学院とを擁する総合大学である。学生数は大学院を含めて約５万人、教職員数は約4,200人。

静宜大学 学部派遣交換留学

台湾台中市沙鹿区にある私立大学。英語名は Providence University。カトリック系共学大学でアメリカ合衆国インディアナ州にある American congregation of the Sisters of Providence of St. Mary-of-the-Woods によって創立，大学の始まりは1920年までさかのぼる。キリスト教の教義である愛と慈悲と正義の教えのもと、学生が社会に良い変化を効果的にもたらせるように学問の分野において世界観や生涯の価値観、研究能力、さらには批判的に物事をとらえる力の向上のために学生を導く努力をしている。

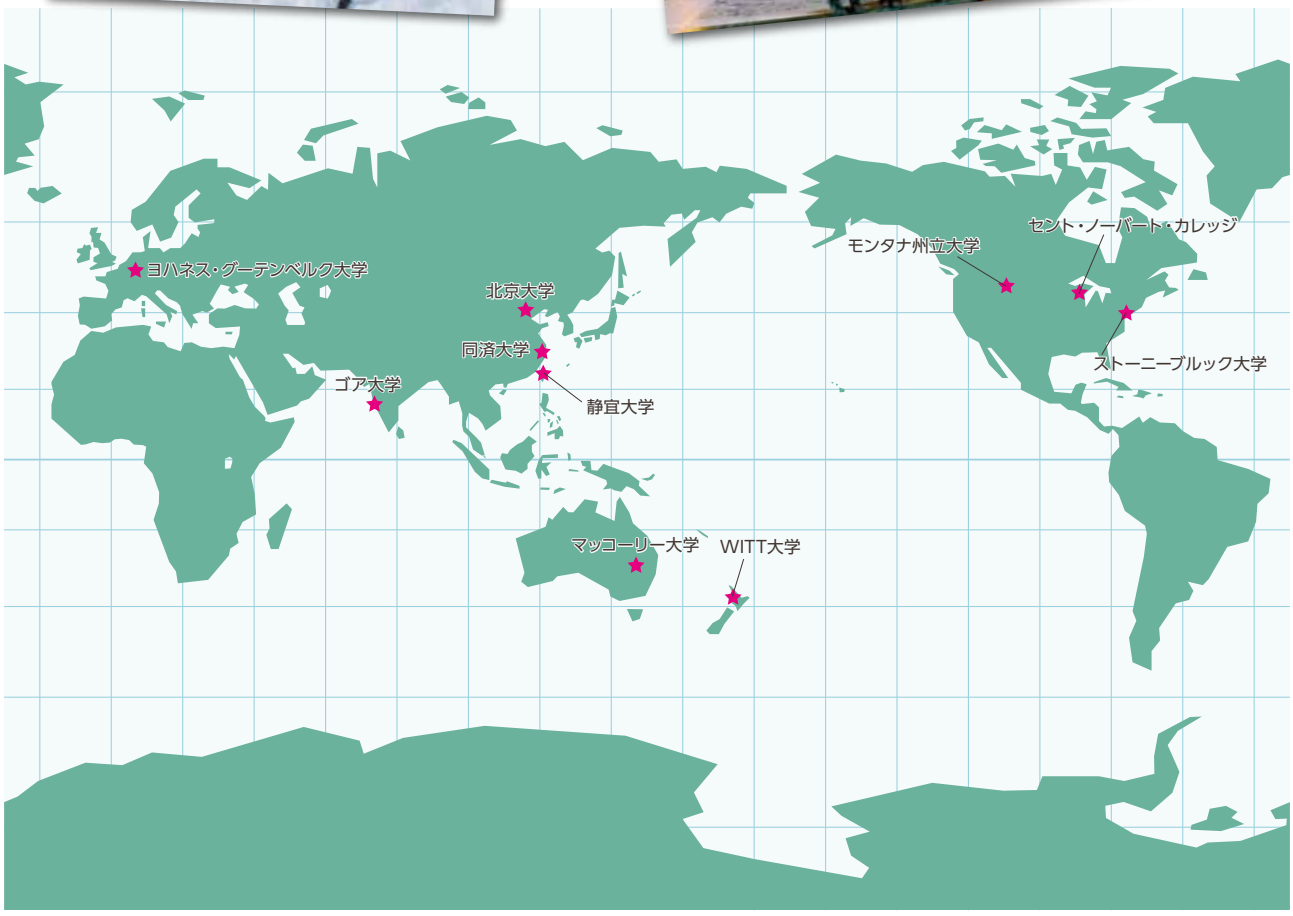
ヨハネス・グーテンベルク大学 学部派遣交換留学

ドイツラインラント＝プファルツ州マインツにあり、1477年にマインツ大司教の威光にてヨハネス･グーテンベルクを中心に設立された。約130カ国から36,500人の学生が集まるヨハネス・グーテンベルク大学マインツ（JGU）は、ドイツの10大大学の一つである。ラインラント＝プファルツ州で唯一の総合大学として、マインツ大学医療センター、音楽科、芸術のマインツアカデミー含む一ほぼすべての学問分野を兼ね備えている。

新 規 プ ロ グ ラ ム

平成26年度追加予定のプログラムです。

- **中 期 留 学** — トロント大学（カナダ）
- **短期海外語学研修** — メリルハースト大学（PIA）（アメリカ）
  詳細については、国際教育センターに確認してください。
- **ティーチング・インターンシップ・プログラム** — ナラン学校（モンゴル）
  詳細については、教務課に確認してください。



2 国際交流体験記の紹介について

学 部 派 遣

同済大学（中国）
留学期間：平成 24 年 9 月 10 日～平成 25 年 7 月 26 日

担い手

国際総合政策学科
稲垣　俊輔

みなさん、中国と聞いたときまず何を連想しますか？偽物、危ない、汚い、臭い、人口が多い、反日、いろいろ連想するかもしれません。おそらくいい印象ではないと思います。もちろん自分も中国を訪れるまでそう思っていました。私は 1 年時に 2 回短期留学で同済大学に行きました。いずれも収穫の多い留学で、自分の眼で見て経験し、実際にその国に行って自分自身で見ることの重要性がよくわかりました。しかし日本人の場合は報道に流される部分があり、中国はその代表例だと思います。始めはやはり自分も報道に流されていたせいか中国は危ない、臭い、反日活動が活発な場所として一番行きたくない国でしたが、短期留学を通してもっと中国を知りたいと思ったし、発信していきたいと思うようになりました。そして今回の留学に踏み切りました。

今回の留学で中国は 3 回目となり、新しい発見は望めないのではないかと思いました。しかし 1 年間の中国での生活は、毎日が新鮮でとても充実し、多くの新たな発見があり、本当にいい経験が出来ましたし、現地でしか味わえない経験も数多くしました。しかし、日本人であるが故に中国人からは冷めた眼で見られる事も多くありました。特に印象に残っているのは、旅行で行った西安です。中国人ツアーに参加したのですが、僕たちのことを日本人だと気づくと何人かは冷めた眼で見てきました。さらに観光地では射的などが置いてあり、その的になっていたのがなんと安倍総理。大げさに聞こえるかもしれないですが、その時は生きた心地はしませんでした。こうみると日中関係ってまだまだ悪いと思うかもしれませんが、日本が好きな中国人は数多くいて、国単位ではなく、個人個人で見ると日中の関係は決して悪くないものだと思います。留学中に大学の野球部に入っていました。そこでは日本人は僕しかおらず、全員中国人でしたが 1 回もアウェーだとは感じた事はありませんし、皆日本に興味があり、いつかは日本に行きたい！という人ばかりで、この先の日中関係への光が垣間見えた気がします。さらに日中友好を合言葉に唯一の中国人混合の社会人ソフトボールチームにも参加し、中国人と共に汗を流しました。まさにスポーツに国境はなし、今ではそのチームが僕の第二の家族です。

いろいろと話してきて何を一番伝えたいかと言うと、百聞は一見に如かずだということ。つまり実際にその国に行ってみないとわからないことがたくさんあります。報道に惑わされ、平和ボケしている今日、勇気をだして日本を飛び出して気になっている国に行ってみてください。絶対に考え方が変わります。僕が中国で経験してきた事は一生の宝であると同時にこれからの糧となるはずです。

日中関係が良くなる日はまだまだ先の事かもしれません。ですがこのように少しでも中国の事、日本の事を発信していき、両国の人に日本と中国はどういう国なのかというのを伝える役割を中国に留学していた人は担っているのではと思います。

日中友好社会人ソフトボールチームと

クラス会にて

学 部 派 遣

静宜大学（台湾）
留学期間：平成 25 年 2 月 17 日～平成 26 年 1 月 12 日

台湾留学体験記

国際総合政策学科
富澤　将那

私は2013年2月から2014年１月までの約一年間、台湾の静宜大学に交換留学した。この間、私は国籍も性別も年代もばらばらなたくさんの人たちと知り合うことができ、彼らと行動を共にすることによって、今まで自分が知らなかったたくさんのことを学ぶことができた。台湾に来てからは友達とのおしゃべりにしても、買い物に行くにしても、すべてが勉強の日々で改めて勉強して日々精進していくことの喜びを実感した。台湾に来たばかりの頃は、生活習慣の違いや慣れない環境でストレスが溜まったりして高熱をだしたり、うまくコミュニケーションが図れないためにルームメイトとの間でトラブルが発生したり、お店に行って注文しようと思ってもうまく伝わらなかったりなど､たくさんの困難があった。しかし、今ではその一つ一つの困難も成長のために必要な糧だったと思える。

台湾に来てから一番印象に残っているのは、今年の３月に行われたWBCの日本VS台湾の試合を学校の食堂で観戦した時のことである。前回大会までは日本国内で観ていたためにそれほど自身の国民感情を感じるとはなかったが、今回は異国の地での応援。この日は学校の食堂にあふれかえるほどたくさんの人がいると同時に、私たちは多くの台湾人に囲まれながらの観戦であった。自国の勝利を願い応援していく中で、自分が日本人であること、そして日本にいるときには気づくことのできなかった“愛国心”が自分にこんなにもあるということを知った。やはり自国を出て初めて愛国心というものは知ることができるのだと感じた。

また、試合後の台湾代表の紳士的な態度にも非常に感動させられた。あと一歩のところで勝利を逃すという悔しい敗戦にもかかわらず、試合後に球場に集まったファンに対して深々と頭を下げて一礼した姿はとても素晴らしかった。これによって、私を含めた多くの日本人がさらに台湾に対して好感を持った事だろう。

そして、この試合で日本のファン達は一昨年に発生した東日本大震災に対しての台湾の援助に感謝を示すべく会場に“謝謝台湾”と書かれたボードをたくさん持ってきた。私はこれを見てとても感動すると同時に、また日本とこんなに仲の良い“国”があると思うととても暖かい気持ちになった。（台湾は正式に国家とは認められていないが、ここでは国と呼ぶことにする。）

私の見てきた世界は決して広くないし、まだまだ知らないことばかりだが日本と台湾のようにこんなにも仲の良い国は世界中探してもないのではないかと思う。私自身、台湾は日本にとって世界一の親日国家であると信じているし、また日本が世界一の親台国家であると信じたい。現在、色々な政治的問題で日本と台湾の間には正式な国境はないけれど、いつの日か正常な二国間の関係になれるよう願ってやまない。私が一年間ここで学んだことが将来どのような形になるか分からないが、台日関係の益々の発展に貢献できたらこれ以上嬉しいことはないだろう。

静宜大学の留学生全員参加のお別れパーティー

留学生みんなで作ったサッカーサークル

本　部　派　遣

鄭州大学（中国）
留学期間：平成 24 年 8 月 30 日～平成 25 年 6 月 30 日

国際交流で学んだこと

国際交流学科
鈴木　美沙子

私は今回の鄭州大学への留学を通して、コミュニケーションの大切さを改めて実感しました。留学期間中、問題が出てくるたびにとても不安でした。しかし帰国して振り返ってみて、楽しい思い出もたくさんできたことや、マイナスの要素をたびたびフォローしてくれた大学の方々と、親切な中国の友人ができたことを本当にうれしく思います。

中国人や他国籍の人と交流して気づいた若い外国人が持つ日本についての１番大きなイメージは、アニメと漫画でした。日本について話すときには必ずアニメ、漫画のことを聞かれ、日本人ならみんな見ていて当然だと思われていたことに驚きました。外国でも日本のアニメは人気だということは知っていましたが、これほどにまで浸透しているとは思っていなかったので、私が日本の文化を知る良い機会になりました。

鄭州大学には日本語学科があります。どの学生も私が普段している学習量の数倍をこなしていて、私の中国語学習歴より短い日本語学習歴の学生が流暢な日本語を話している姿を見たときは少しショックでした。私の留学の志望理由の１つに中国語を学び、中国語を話せるようになりたいというものがありました。日本に行ったことがない、そもそも鄭州から出たことがない人が努力して身に着けた日本語に対して、私の中国語はとても及ばず、なんだかんだ理由をつけて恵まれた環境に甘えていたことや、語学は留学すれば何とかなるのではないかという思いが少なからずあったことを、恥ずかしく思いました。最初のころは中国語での会話がほとんど成り立たず、筆談や片言の英語を使ったりしてコミュニケーションをとるのに苦労しました。しかし、授業を受けて、時間がかかっても交流してくれる友達ができたことで少しずつ聞き取れるようになったのと、自分の意思を伝えられるようになりました。それが実感できたのが楽しかったですし、モチベーションの維持につながりました。

私は、自分が「日本人」だということを真剣に考えさせられたのは今回が初めてでした。日本のことが嫌いな人がいるというのは想像していましたが、対面で日本のことは好きではないと言われたのは悲しかったです。鄭州の生活にも慣れてきたころに余裕ができたので河南の方言を何個か教えてもらいました。すべて方言で話せなくても、方言の単語を１つ言うだけで喜んでくれた姿をみて不思議に思いました。日本と中国の関係が修復するのはまだ時間がかかりそうですが、私はこれからも鄭州大学でできた友人を大切にしたいですし、もっと多くの中国の友達がつくれたらいいなと考えます。また、中国国内でもまだ発展途中の鄭州に注目していきたいです。

風当たりが強い時もあれば、現地の人の優しさに触れられる時もあり、変化に富んだ留学生活でしたが、私にとって生涯忘れられない経験になったと思います。このような貴重な経験をさせていただいた、日本大学の方々、鄭州大学の方々に感謝しています。

先生と友人と

クラスメイトと

本　部　派　遣

ストックホルム大学（スウェーデン）
留学期間：平成 24 年 8 月 26 日～平成 25 年 6 月 15 日

スウェーデンという国が教えてくれたこと

国際交流学科
髙水　美沙

スウェーデン留学を通して本当に多くの人との出会いがあり、苦労があり、感動があり、ほんの10ヶ月間でしたが、この留学は私にとって「今まで生きてきた人生の中で一番充実していた時間」と心から思います。

まず、私がストックホルム大学を留学先として選んだ理由は、「世界中から優秀な教授や学生が集まっている」という事実でした。今いる場所よりもずっと厳しく、優秀な人達と共に切磋琢磨できる環境に身を置く事が出来ることは、私にとって人生の幸福以外の何物でもないと思うと同時に、「もっと自分を成長させたい」という強い思いがありました。そして、スウェーデンという異国の土地・想像も出来ない環境の中で長期間身を置き、日本人の少ない土地での生活に挑戦したいと思うようになり留学を決めました。

ストックホルム大学では日本の大学と違って大教室で行う大人数の講義は少なく、私の場合、留学生用に開講された授業を受講していたので、多くても 1 クラス20人ほどです。日本とは同じ形式の講義は少なく、どの授業もグループワークを中心に授業を進めて行きます。プレゼンやディスカッションの回数も多く、自分の意見を常に持ち、「自分から積極的に発言」しなければ、蚊帳の外になってしまいます。そして何よりも、現地の学生は、将来自分のやりたい事や勉強したい分野が見つかってから大学に来るので、勉強に対する熱意もまったく違いました。実学・個人主義で私は常にモチベーションが高い学生に会っていたので、「私も負けてられない。」という気持ちで日々過ごしていました。

そして何よりも向こうの大学ではノートを取ってテストを受けるだけでは成績はもらえません。膨大な資料を読み、課題をこなすことは当たり前の環境下で、レポートを評価する先生の目はとても厳しく、特に「自分のアイデアを活かしながらもいかに論理的な内容を書いているか」という点についてはとてもシビアで、レポート提出は本当に毎回緊張しました。

スウェーデンは、移民や留学生特にEU各国からの学生が多いので、英語で行われる授業では周りがスウェーデン人だけということはありません。そのために、プレゼンやディスカッションもさまざまな国の事情についてよく話題になり、毎授業とても有意義な時間を過ごしていました。スウェーデンにいただけで、延べ20カ国以上もの友人と知り合えた事が本当に嬉しかったです。理論だけではなく実践的な学習を通じて、日本にいるだけでは得難いものを学ぶことが出来ました。

私が留学を通して学んだ事は、「何でも挑戦してみる」ということです。何事も、「できないのではないか？」という不安から始まるのではなく、自分を信じて、「とりあえず挑戦してみよう」「私なら絶対に大丈夫」という考え方に変わっていきました。その結果、スウェーデンという異国の地に慣れるにつれて、欧州諸国への一人旅や、現地のNPO団体に自ら赴き、ボランティア活動にも積極的に挑戦しました。留学を通して得た、「やろうと思えば何でも出来る」という行動力を活かし、将来の仕事に対しても、「私には○○についての知識がないからこの仕事は出来ない」と考えるのではなく、自分に可能性のあるもの、興味があるものに対して積極的に挑戦していきたいと考えています。

この素晴らしい留学は、決して自分一人だけの力で成し遂げたわけではありません。エントリーに必要なTOEFLのスコアが足りなかった私のために、ご多忙中、何度も面倒を見て下さった恩師の方を始め、職員の方々、そして留学中、遠く離れていてもいつも応援メールや励ましの言葉をくれた家族、友人には感謝の気持ちで一杯です。本当に心から、「永住したい」と思わせてくれたスウェーデンという国や現地で出会った人々に対してもこの場を借りてお礼が言いたいです。Tack så mycket！

インターナショナルディナー　日本編

私が愛した街ストックホルム

中 期 留 学

セント･ノーバート･カレッジ（アメリカ）
留学期間：平成 24 年 8 月 21 日～平成 25 年 3 月 8 日

異文化コミュニケーションとは

国際総合政策学科
内藤　愛海

みなさんは大学生活をどのように過ごしているだろうか。私は大学に入学し、毎日漠然とした日々を過ごしていた。山のような宿題、毎日の部活動。目が回るくらい忙しかった高校時代を過ごしてきた私にとって大学というものはあまりに自由であり、どのようにこの自由な時間を過ごしたらいいのかわからなかった。そんなことを考えているうちに時間は流れ、友達と遊んで、バイトする。これをひたすら繰り返す中身のない生活を送っていた。そんな生活を変えたいという思いもあり、昔から一つの夢であった留学にいくことを決めた。

私は半年間のアメリカ生活で本当にたくさんのことを学び、吸収した。たかがレポート用紙１枚や２枚では到底書くことはできない。しかし、あえて私が主張したいことといえば、言葉はコミュニケーションの一つのツールなのであり、大切なことはもっとその先にあるということだ。留学前、私には一つ不安なことがあった。それは、私は全く英語を話すことができないということだった。こんなことでやっていけるだろうかと心配していたが、その不安はすぐに払拭された。留学当初、私はうまく自分の言いたいことが伝わらず、英語を話すことを諦めてしまうことがあった。そんな時、ある友達が「Ｄｏｎ’ｔ ｗｏｒｒｙ ａｂｏｕｔ ｉｔ. Ｊｕｓｔ ｔｒｙ ｉｔ！（気にしないで。挑戦してごらん！）」と言ってくれたのである。つたない私の英語を一生懸命理解しようとしてくれたのだ。自分に本当に伝えたい意思があれば、また相手が本当に聞く気があれば言葉の壁というものはある程度関係ないのであり、大切なのは相手を思いやる気持ち、相手のことをもっと知りたいと相手に興味を持つことなのである。確かにビジネスなどの場面においては正確に相手に意見を伝えることが必要であり、言葉というのは非常に重要になってくる。私が留学にきた目的の一つにも語学力の向上がある。しかし、コミュニケーションの本質というのはやはり人と人の思いやりの気持ちが土台になっているということを私は強く感じた。バックグラウンドが違えど、相手を思う気持ちがあればその違いを受け入れることができるのではないだろうか。

グローバル化が進んでいる近年、日本に住む私たちも異文化に触れる機会はこれからどんどん増えていくことになるであろう。人種や言語の違いを超えて、人と人として接すること。私たちは違いを意識しすぎなのであり、もっと気楽に考えるべきだ。みんなひとりの人間なのだから。

最後に、今留学を考えている人がいるならば、私は声を大にして言いたい。「まず行動してみることが大事」だと。私達が思っている以上に世界は広い。私達が思っている以上に知らないことはたくさんある。たった一度の人生なのだから、もっと外に出て、いろんなものを見て、聞いて、感じるべきだ。

ESL students with Linda

色づいた木の下で

中 期 留 学

ゴア大学（インド）
留学期間：平成 24 年 9 月 24 日～平成 25 年 3 月 2 日

心の「内」に耳を澄ませて

国際ビジネス情報学科
後藤　学

私は 3 年生の後期にあたる2012年 9 月24日から約半年間のインドへの交換留学へ参加しました。インドで過ごした半年間を振り返った時に一番感じることは、人間としての「深み」や「幅」が以前と比べて格段に広がったということです。先進国・日本と発展途上国・インドでの生活水準の違いは、想像をはるかに超えるものでした。インドに着いた当時は、まさに驚きの連続でした。10人もアクセスすれば使えなくなるようなインターネット環境、お湯が出ないシャワー、濁った水、カレー漬けの日々に、毎日の停電。日々の生活の中で見るもの、体験するもの全てが私にとって初めての経験であり、新鮮かつ衝撃的なものでした。今までの人生の中で当たり前だと思っていたことが、当たり前ではなく、日本人としての常識、考え方は全く通用しない環境でした。

数えきれないほどの素晴らしい経験をしてきましたが、その中でも、自分自身にとって非常にインパクトが強い出来事があります。それは、ニューデリーで起きた大規模なデモに参加した際にそこで見たもの、感じたことです。

昨年末に、ニューデリー起きた強姦事件を発端に現地で起きたインド史上最も大規模なデモがあり、実際私も現地に足を運びました。このデモには様々な複雑な背景があり、単に強姦に対するものだけではありませんでした。もちろん多くの人々が悲惨な強姦を受けた少女のために声を上げていました。しかし、問題の背景には、未だに残るカースト問題、女性差別、腐敗した政治への国民の怒りが交差していたのです。そして、この運動の中心にいるのは若いインド人学生たちでした。自分たちの国に対して当事者意識を持ち、声を張り上げ、国を変えるために動く彼らの姿に日本人学生の私との大きなギャップを感じました。恵まれた環境に慣れ、日々平和に暮らしている中で、物事を敏感に捉えることに欠如している私にとって、今までに感じたことのない不思議な空間でした。私は、次世代を支える若者たちによって国が新しい時代へと変わろうとしている歴史的瞬間に立ち会えたのです。

これらのように大きな出来事から、日々の小さな出来事まで、全ての経験が自分自身のプラスになったと確信しています。日本とは180度違う環境の中で、今まで食べたことのないものを食べ、今まで見たことない美しい景色を見て、感動し、様々な新しい出会いを通して、日本では感じたことない豊かさを感じることのできる機会を得ることができ、人生をより温かいものにしてくれました。日本という豊か過ぎる環境で生きる私。そして、決して豊かとは言えない環境で暮らす彼ら。しかし、「心の豊かさ」という天秤に私たちをかけた時、私は何 1 つ違いを感じませんでした。インドでの生活を通して、真の「豊かさ」とはお金や環境だけが多くを占めるものではなく、普段の日常にある小さな幸せや喜びに比重があるということ。そして、いつでも私たちの「内」に宿っているものであると感じました。

デモに参加していた少女

ゴアのビーチにて

中　期　留　学

北京大学国際関係学院（中国）
留学期間：平成 25 年 2 月 24 日～平成 25 年 6 月 17 日

北京大学中期留学報告書

国際教養学科
佐藤　茉莉子

中国には「车到山前必有路」ということわざがある。直訳は山に着いた車の前には必ず道はあるという意味で、何かあってもどうにかなる、という意味だ。日本で言う「案ずるより産むが易し」と同じだ。北京大学で教わった先生の一人が教えてくれた言葉であり、これからもわたしの中に残り続ける言葉の１つだ。

出発するその日まで心配することは山程あったし、到着してから出てくる疑問や心配もたくさんあった。着いて間もない頃は、中国に滞在していた経験のあるメンバーにくっついて行動するだけで、自分では何も出来なかった。そして慣れる暇もなくやってきた初授業の日、恐ろしいスピードで中国語を話す先生の言葉を聞き取ることもできずに、やはり経験者に確認してばかりだった。いっぱいいっぱいの表情をしていたわたしに、先生は励ます言葉をかけたが、それさえ聞き取れず、先生は最終的に「加油（がんばって）」と言ってくれた。

日が経つにつれて、北京での生活に慣れることができて、朝一人で散歩をしに行くまで慣れた。留学のメンバーと中国のゴールデンウィークの期間を使って、内モンゴルに行くという弾丸の旅行に出かけたり、西安に出かけたり、北京以外の場所もたくさん体験した。中国という国はとにかく広いので、場所によって北京と全くちがった雰囲気や文化がある。まるで一つ一つがちがう国であるかのようで、鳥インフルエンザの影響もあって、上海や香港などの南方と呼ばれる地域を回りきれなかったのは残念だった。

留学の生活も終わりに近づいてきた頃には、授業にもついていけるようになり、寮の守衛さんと長い時間話をすることができるようになり、帰国が惜しくなるほどだった。

ある日の授業後、先生に授業で行うスピーチの原稿を直してもらっているとき、先生は「来た頃よりずっと上手になったわよ」と褒めてくれた。来たばかりのときは心配ばかりだったということを伝えたとき、教えてくださったのが「车到山前必有路」という言葉だ。「あなたが中国に来ることに何も心配しなかった訳じゃないでしょう。でも、来てみればこうやって慣れてしまう。問題は必ず解決できる。日中関係だって、本当はどうにかなることなのよ」というアドバイスをしてくれた。

わたしはこれからも日中友好の架け橋になるために、何ができるか、何をするべきかを考えたい。日中問題というのは、解決するのには相当な時間がかかるかもしれない。しかし、「车到山前必有路」の言葉も必ず実現するはずである。今回の留学を通して、心配せずにとにかく挑戦してみるということを学び、そしてこれからも何事にも挑戦してみるという姿勢をなくさないようにしたい。

最後に、一緒に勉強してきた韓国の留学生、同じ棟に住んでいろいろなアドバイスをしてくださった早稲田大学の学生さんたち、たくさんのことを教えてくれた先生方、数えきれないほど楽しい思い出をくれた留学メンバー、支えてくれた両親、そして留学の期間ずっとサポートしてくださった国際教育センターの方々に、感謝します。

韓国人と初めての交流会

砂漠ではしゃぐ

ティーチング・インターシップ・プログラム

St. Anthony's Catholic College（オーストラリア）
派遣期間：平成25年2月4日～平成25年3月28日

笑顔は私を元気にする！

国際交流学科
森田　亮

「みなさん、おはようございます！」この一言から私の一日が始まります。

私はオーストラリアのタウンズビルという街にある、St. Anthony's Catholic Collegeに約二ヶ月間派遣されました。担当した学年は主にYear 6からYear12まで、日本の小学5年生から高校3年生に相当します。私は日本文化を中心に一日2－3コマの50分授業をしました。真剣に静かに聞いてくれるクラスもあれば、ちょっとした隙を与えると収拾が付かなくなる程のやんちゃなクラスもいくつかありました。

今振り返ってみると、派遣当初は外国語である英語を使い、生徒の前に「先生」として立ち、授業ができるのかどうか、という不安でしかありませんでした。しかし、そんな不安を感じている暇もないくらい忙しい毎日で、いざ生徒達の前に立つと自然と体が動き、淡々と授業をしている自分がいました。授業と言っても手ぶらで行って、40分できるはずもなく、それ相応の準備が必要です。現地の担当先生と事前に打ち合わせを行い、一クラス何人か、どういった流れで授業をするのか、どのようなものが必要か、プロジェクターが使えるのか、また、準備してきた素材や機材が全く使えない状況を想定して授業を構成しなければなりません。そして、生徒の中には学習障害を持っていたり、特別な事情がある生徒もいます。そういったことを全て考慮して授業をしなければなりません。授業をするということは、とてつもない時間と労力が必要でした。しかし、それらの苦労を全て帳消しにしてくれたのが、生徒たちの笑顔でした。たった50分の間に、「日本ってすごい！」「へぇー日本っておもしろい！」と感じ、時には体験して、笑顔を見せてくれる生徒たちに何度も「大変だったけど頑張って良かった！次も頑張ろう。」と感じることができました。

この二ヶ月間をストレスになることなく過ごすことができたのも、派遣前のトレーニングで何度も何度も失敗を繰り返し、回を重ねるごとに成長し、切磋琢磨しあえる8人の仲間達と出会えたこと、根性から徹底的に鍛えていただいた、先生方のおかげです。また、St. Anthonyの先生でもあるホストマザーをはじめ、ホストファミリーに何度も助けていただきました。時にはお酒を交えて、学校の苦労話をしたり、日本とオーストラリアの違いについて、政治の話や、恋愛について話したこともありました。週末になれば、ホストブラザーやシスター達がショッピングや動物園へ誘ってくれたり、バーで飲むことでリフレッシュすることができました。

このプログラムを通して経験し、学んだことは、これから「社会」という大きな大海原に飛び出す自分にとって必ず役に立つと信じています。また、この貴重な経験が無駄にならないように残りの大学生活を意義あるものにしていきたいです。

最後にこの一年間、支えてくれた多くの人、先生方、そして苦楽を共にした、かけがえのない8人の仲間達に心から感謝しています。ありがとうございました。

5年生と節分の授業にて

7年生とひな祭りの授業にて

ジョイント・ディグリープログラム

ストーニーブルック大学（アメリカ）
留学期間：平成 24 年 1 月 14 日～平成 25 年 12 月 21 日

ジョイント・ディグリープログラムを終えて

国際ビジネス情報学科
山田　祐希秀

この 2 年間は、本当に苦労の連続でしたが、おかげで大きく成長する事ができました。留学では、かけがえのない良い経験と友を得ることができ、帰国してみると、一皮も二皮もむけた成長した自分を感じ取る事が出来ました。社会人になっても、留学で身に着けたバイタリティーを活かしていきたいです。

フルタイムの学生として留学し、留学の楽しい面だけではなく、辛い面も経験する事もありました。留学中は、1 日 1 日が本当に濃く、つい 3 日前の事も何十日も前の事に思えるほど刺激的で充実した日々でした。もし今、これを読んでいて、留学してみようか考えているのなら迷わず行くべきだと思います！旅行で海外に訪れるのとは違い、実際に現地で生活する事や多くの人との繋がりがあるところが留学の良さだと思います。

〈大学生活〉

主専攻の経営学部経営学科では、生産管理とサプライチェーンについて主に学び、実践的な知識やスキルを身につけました。授業は、プレゼンテーションが多く、人の前で話す力や英語でディスカッションする力を高める事が出来ました。また、沢山のケーススタディーを通して、実際のビジネスで使われている問題発見や解決の方法を学び、ビジネスに対する見識を広めました。主専攻を通して、ビジネス的発想や考え方を身につける事ができました。

副専攻の国際学では、「なぜ途上国はさらに貧しくなるのか」をテーマに学びました。ゼミナールでは、途上国視点から歴史を学びました。また、授業では毎回、YESとNOに分かれディスカッションを行い、違った考えを聞く力を身につけました。ゼミの 2 科目で合計50ページ以上のレポート提出をしました。教授や友人との議論を通して自分の価値観や興味のある分野を発見する事が出来ました。

学業以外にもゴルフクラブやグループ活動で出来た友達、ハウスメイトとの思い出では宝物です。ストーニーブルックは、マンハッタンまで車で50分程の立地なので週末は、美術館やライブハウスに行き、充実した大学生活を送る事が出来ました。その他にも長期休暇を利用して、友人と車でアメリカ横断をするなど、アメリカを満喫する事が出来ました。

〈留学を考えている学生へ〉

私は、 5 年前の春にこの留学の冊子を読んで「海外に行きたい！」と強く思っていました。そのため、大学一年生の時からTOEFLの準備をしていました。留学の条件をクリアするのは、難しかったです。友人と毎日欠かさず図書館に足を運びました。SBUに行ってからはもっと大変でしたが、そのおかげで人生の中で一番成長する事できました。留学中は、普通では出来ない事がたくさん出来ます。単語を覚えれば必ず点数は上がります。夢に向けがんばって下さい！

最後になりましたが、日本大学の皆様と国際関係学部国際教育センターの皆様、そして 2 年間以上も留学のサポートをしてくださった田中さん。これまで支えて下さった全ての皆様に心から感謝を申し上げたいと思います。

派遣学生として、また今後の日本の未来を支える一人の若者として、日本大学とストーニーブルックで培った力をフルに発揮して、よりよい未来へと繋げていきたいと思います。ありがとうございました。

アメリカ

ハウスメイトとの食事

認定留学

西カトリック大学附属語学学校（フランス）
留学期間：平成25年2月5日～平成25年9月4日

フランス留学報告書

国際総合政策学科
森本　美穂

私は2月5日から9月4日までフランスの北西部に位置するアンジェというところに認定留学をしました。留学するまでの準備はとても大変でしたが、しっかりと準備をしたおかげで、フランスでの7か月間をスムーズに、そしてとても楽しく過ごすことができたと思います。留学中は西カトリック大学の付属の語学学校に通い、フランス語の文法・会話・リスニングなどをみっちり勉強しました。前期での留学なので日本人は少なく、勉強するにはとてもいい環境であったと思います。

生徒は世界各国からの留学生ばかりだったので、一緒の空間にいることで彼らの考え方・価値観を学ぶことができたり、放課後や休日にはバーに行ったり、遊んだり、彼らの国の料理を一緒に作ったりと、フランス語以外のことをたくさん学ぶことができました。また、私たち日本人にも方言があるように、それぞれの国・人種によってフランス語の発音の仕方・聴こえ方が違ったので彼らとの授業はとても新鮮で興味深いものでした。

ホストファミリーにも恵まれ、生活への支障は全くありませんでした。フランス人と触れる時間をより多く持とうと懸命に話し、相手の話に耳を傾けることを心がけ、毎日フランス語で日記を書くことにも挑戦しました。時にはマダムとマダムの娘に日記を添削してもらい、おかげではるかにフランス語の運用能力が上達しフランス人や学校の友達と多くのことを話すことができるようになりました。今ではその日記帳は私のとても大切な宝物です。ホストファミリーとは本当に仲良くなり、家族内でしか話さないような家族内の問題も私に話してくれました。少し戸惑いはあったものの、それだけ私を信頼し、心を開いていてくれたのだなと思うと、とてもうれしい思いでいっぱいになります。たくさんの愛を与えてくれたホストファミリーには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

フランスにはバカンスというものがあり、私たち留学生にもたくさんのバカンスがありました。その間フランス国内・ヨーロッパを訪れ、たくさんの人や歴史的建造物、文化に五感で触れ、多くのことを経験しました。フランスでの日常生活の時だけではなく、これらの旅の中でも未知である外の世界に身を置くことで広い視野を手に入れ、自分自身を見つめ直すことができました。

バカンス後の夏期講座、特に八月の講座ではフランスに関係のある話題を選び、実際にその話題についてフランス人に街頭調査を行い、まとめた結果をプレゼンテーションするという課題が与えられ、とても濃い内容の一か月でした。普段は知り合いのフランス人としか話すことがないため、自分からまったく知らない人に声をかけるというのは簡単なことではありませんでした。しかし、この経験は私の留学の集大成を飾る最高のものになったと思います。

留学することを認めてくれた家族、また支えてくださった先生方や学校関係者の方々・友達にとても感謝しています。本当に有り難うございました。

7月14日　フランス革命祭

語学学校でのクラスの集合写真

柳川海外交流
奨学金留学

ヨハネス・グーテンベルク大学（ドイツ）
留学期間：平成24年4月1日～平成25年2月28日

ドイツの母からの言葉

国際関係学科
丹羽　菜緒子

私は2012年４月から１年間、ドイツのヨハネス・グーテンベルク大学に柳川海外交流生として留学しました。今までドイツに行った経験がなかった為、写真やテレビでしか見たことがない国に自分が１年も生活する想像ができませんでした。しかし実際に行って見ると、ドイツは歴史あるものをきちんと残しながらも街が綺麗に整えられており、緑や花など自然も多いとても素晴らしいところでした。また、ドイツの人々は親切な方が多く、道なども丁寧に教えてくれますし、様々な場面で人の温かさを感じました。歩行器と一緒に電車に乗ろうとするお年寄りを中学生ぐらいの子でもすぐにサポートする姿勢には感心しました。

そんなドイツでの生活には辛いことも当然沢山ありました。ドイツ語を理解すること･話すことが全然できず、思うようにコミュニケーションが取れませんでしたし、それによって友達ができるのだろうかという不安を感じたり、知らない事ばかりで道に迷ったり、乗り物や買う物を間違えたりと失敗も数えきれない程しました。本当に辛くて落ち込む時期もありましたが、どんな時も「私なら絶対大丈夫！絶対やれる！」そう自分に言い聞かせることはやめませんでした。何か新しいことに挑戦するときに、不安や迷いがあっても同じように「自分はやれるんだ！」と言い聞かせました。その気持ちを持てたことが一歩前に踏み出す勇気にも、一つ一つ乗り越える力にもなりました。

私がこうして自分を信じることができたのは、ドイツ生活最初の１ヵ月間お世話になったホストマザーのモニカが、ある事件がきっかけで私に言った言葉のおかげでした。街を歩いているとアジア人である私を侮辱したり馬鹿にする人がいました。まだドイツに着いて間もない当時の私はそれを全て受け止めてしまい、気にしないようにはしていても何度かそのようなことが続いたことで、とうとう我慢できず外に行くのが辛くなり、彼女の前で泣いてしまいました。その時に彼女が、そういう人を気にするなということの後に、弱い私に対し「自分の中にまっすぐな芯を持って強く在りなさい。そうすれば負けたりしないから。あなたなら大丈夫よ。」と言ってくれました。そして自分はドイツでの私の母親であるとも。そんな〝母〟からの言葉が私を強くしてくれました。大学生活が始まり、ホームステイから寮生活になり本当の意味で一人になってからも心を強く持ち続けました。多くの友人を得たこと、充実した時間を過ごせたこと、何事にも立ち向かえる強さがついたこと、道を切り開けたのはこの気持ちがあったからです。

この１年間のあらゆる経験と出会いは私の一生の財産です。留学できて本当に良かったと心から思います。今後も〝母〟からの言葉を忘れずに、ドイツでの経験と得た強さを様々なところで最大限に活かしていきます。

そして最後に、いつも私を支えて下さった家族、友人、教授へ心からの感謝を伝えたいと思います。Herzlichen Dank!!　ありがとうございました！

ドイツ語クラス

カーニバル開会式

短期海外
語学研修

ストーニーブルック大学（アメリカ）

研修期間：平成 25 年 8 月 4 日～平成 25 年 8 月 18 日

I ♥ NY

国際教養学科
野中　侑奈

私はニューヨーク州ロングアイランドに位置するストーニーブルック大学に約 2 週間の短期海外語学研修に参加しました。私は高校生の時から国際交流を多く経験し、大学に入学したら留学したいと思っていました。参加した目的は、さらに英語力を伸ばしたいと思ったこと、本場のネイティブスピーカーの授業を受けたいと思ったこと、そして英語で世界中の人とコミュニケーションをとり、友達をたくさん作ることでした。

授業は、約 2 週間平日午前 9 時から午後 4 時まで 1 コマ50分で行われました。最初にクラス分けの実力テストを行い、結果によりクラス別に授業が行われました。必修授業と選択授業があり、必修授業は読み取り、書き取り、聞き取り、会話を中心とした授業でした。選択授業はアメリカの文化について討議する授業と英会話のスキルアップの授業でした。先生はネイティブで日本語を話せないので、苦労することが多々ありました。

授業では、日本人が苦手な発音やアクセントをたくさん教わりました。一緒に発音練習の仕方を 教えてくださり、一人ひとりに指摘してくださったので、みんな自分の苦手なところやできていない部分がよく分かりました。また、日常生活でよく使う英語表現をこの短期間で多く学ぶことができました。授業中毎時間、グループを作って先生が出した題目についてみんなで議論をして一人ひとりが発表するという授業もあり、日本語を使いたくなるのをこらえてみんな必死に英語で議論をしました。私は毎時間、積極的に手を上げて発言するよう心がけました。自分の英語の使い方が間違っている時は、先生が正しい英語表現を教えてくれるので、次からは意識して話すようにしていました。短期間でも、少し英語力が伸びているのが、自分でもわかった気がしました。

ストーニーブルック大学では学生寮に滞在するので、2 週間生活する中で外国の友達もたくさんできました。

週末は片道約 2 時間電車に乗って、ニューヨークを観光しました。初めてのニューヨークの空気、見るもの触れるもの感じるものすべてが新鮮でした。

私は国際関係学部で唯一の 1 年生だったので、普段交流しない先輩方と一緒に行動できてとても貴重な体験になりました。また、経済学部の人たちと交流することは普段なかったので、違う学部の同期の友達もでき、日大の輪が広がるように感じました。

約 2 週間という短期間で毎日が濃く、勉強も遊びもとても充実していたと思います。短期海外語学研修での経験は私にとって忘れられない日々であり大切な宝物の一つです。国際関係学部では第 2 言語を勉強している人がいると思います。私もその一人ですが、夏休みには世界中の学生がストーニーに英語を勉強しにくるので、自分の勉強している第 2 言語の人と会話する場もできますよ。少しでも留学したいという思いがある方は、ぜひこのプログラムに参加してみてくださいね。

ニューヨークシティの
タイムズ・スクエア前にて

ストーニーブルック大学　修了式にて

短期海外
語学研修

ハワイ大学（アメリカ）
研修期間：平成 25 年 8 月 4 日～平成 25 年 8 月 21 日

初めての海外で

短期大学部専攻科食物栄養専攻
神谷　衣美

私は平成25年 8 月 4 日から約 2 週間、オアフ島にあるハワイ大学のマノア校の人間資源学部栄養・食物学科の研修プログラムに参加しました。はじめは研修に参加しようか迷っていましたが、海外の大学で栄養学の勉強ができる機会はもうないかもしれないと思い参加を決めました。

現地滞在中は、大学の寮を借りて生活しました。月曜日から金曜日まで朝 9 時からお昼を挟み、午後 4 時まで大学の授業を受けました。午前中は主に栄養学について学び、午後は英会話の授業をしました。栄養学では食事摂取基準や栄養成分表の見方、他にも食品群を使ったビンゴなど楽しく学ぶことができました。また、現地のスーパーに行き、日本でも販売している商品との違いを調査しました。実際に商品を見比べることにより、サイズや表示の違いが良く分かりました。調理実習では、ハワイ伝統の料理を作りました。パンの詰め物を始め、マッシュポテト、ガーリックシュリンプ、パンプキンパイなど初めて作る料理もあり、とても楽しく調理することができました。栄養学以外の授業では、ハワイの歴史や文化、フラダンスを習いました。フラダンスの授業ではハワイの伝統や文化などの深い関わりを感じることができました。体の動き一つ一つに意味があり、改めてハワイの歴史の奥深さを知りました。

英会話の授業では簡単なゲームや、キャンパス内にいる生徒に直接いくつか質問をするなどアクティブな授業が多く新鮮でした。基礎的なとこから分かりやすく説明してくれたので、英語が苦手でも楽しんで受けることができました。

大学の授業の他にも様々な施設で研修をさせてもらいました。特に現地の病院の研修では、現場で働く日本人のRD（アメリカの管理栄養士）のお話や、病院の中を見学させていただきました。同じ病院でも日本とアメリカではいくつも違いがあり驚きました。また、実際に働いている日本人のRDのお話を聞けたことはとても貴重な体験だったと思います。働く場所は違っていても同じ様に栄養士として働いている姿に、私も頑張ろうと思いました。

授業ばかりではなく自由時間も設けてあり、私は休日に友達と一緒にダイヤモンドヘッドに登りました。他にも買い物やパンケーキを食べに行きました。初めは知らない土地に慣れませんでしたが、日が経つにつれ次第に現地の環境にも慣れ、自分から積極的にバスを使って出かけたりするようになりました。私は英語が苦手な方でしたが、勇気を出して話しかけてみると、私にもわかるようにゆっくり答えてくれるなど、現地の方々はとても優しく感動しました。

この研修プログラムに参加したことにより、栄養学の知識を得たのももちろんですが、自分の視野が広がったように思います。始めて見ることや、自分の知らないことは、まだまだたくさんあると改めて思いました。 2 週間という短い期間にこれだけたくさんのことを学べる機会は少ないと思います。少しでも興味のある方は是非参加してみてください。

ハワイ大学アノマ校前にて

調理実習にて

短期海外
語学研修

トロント大学（カナダ）
研修期間：平成25年8月12日～平成25年9月6日

DON’T BE SHY!

国際教養学科
鎌田　理華子

私はこの夏、カナダの大都市であるトロントに4週間滞在した。現地では土曜日と日曜日以外は毎日Language Schoolに通い、初めの1週間はCanadian Cultureを、残り3週間はSpeaking Englishを学んだ。私はカナダの事についてあまり知識がなかったが、Canadian Cultureの授業を受けてカナダの文化について詳しく学ぶ事ができた。教科書等は使わず、先生が配るプリントやフィールドワークで授業を進める形式なので気軽に楽しんでカナダの文化を学ぶ事ができた。Speaking Englishではレベル分けテストでクラスが決まり、教科書を使って授業を進めていく。スピーキングとライティングのテストもあったので気を抜かず英語を学ぶ事ができた。Canadian Cultureに比べSpeaking Englishは少しシリアスだったが、この授業を受けてボキャブラリーの数は一気に増えた。

授業は午前中で終わり、夕方頃からアクティビティが始まる。アクティビティはその日によって内容が異なり、とても充実していた。自由参加で自分の興味があるものに参加できるところも良かった。多くの外国人と皆でビーチバレーをしたり、カヌーにのって湖上できれいな夜景を楽しんだりとカナダでの生活を満喫できた。今思い返すと本当に数えきれないほど素晴らしいことばかり体験したと思う。

私が参加したアクティビティで今でも忘れる事ができないのはナイアガラの滝を見に行った時のことだ。生まれて初めて見る巨大な滝は、まさに自分が映画の中に入っているかのようだった。自分の生まれる前からずっと、こんなにも大きな滝が絶え間なく流れていたのだなあと思うと感動した。今でもあの景色が頭から離れない。

また、滞在期間中に開催していたトロントのストリートフェスティバルもとても面白かった。夏のトロントは午後9時になっても全然暗くならないので、みんな夜遅くまで踊ったりパフォーマンスを見たりして楽しんでいた。

こうして様々なアクティビティに参加し、積極的に外出することによって多くの友達をつくることができた。プライベートで遊ぶことも増え、休日はブラジル人の友達とピクニックに行ったり、放課後は映画や野球観戦に行ったりと毎日が充実していた。外国の友達ができると自然と日常で英語を使う機会が増えた。私は自分の英語に自信はなかったが、それを恥じずに自分なりの言葉で堂々と話した。そうすると自然と会話も広がり、気づいたら1時間ぐらい話し込んでいた事もあった。一番の快感は自分の話に相手が笑ってくれる時だった。この留学で、英語の大切さはもちろんであるが、恥ずかしがらないことの大切さも学んだ。自分の話す英語に恥ずかしがっていると友達はできず会話も広がらない。私は現地の人が日本人に“DON’T BE SHY”と言っている場面をよく見た。相手と会話する時に恥ずかしがっていては結局相手にも気を使わせてしまうことに気がついた。完璧な発音ができなくても、完璧な文法を使えなくても恥ずかしがらずに話す事で相手も心を開いてくれる。

私はこのプログラムを通して自分の英語に自信を持つ事ができ、本当に素晴らしい貴重な時間を過ごすことができた。

ナイアガラの滝にて

友人達とアクティビティにて

短期海外
語学研修

WITT（ニュージーランド）
研修期間：平成 25 年 8 月 19 日～平成 25 年 9 月 17 日

ニュージーランドで得たもの

国際教養学科
柴田　紗瑛子

１ヶ月の研修期間中、私達はニュープリマスという三島市の姉妹都市に滞在し、平日の午前中はWITTで英語の授業を受けた。授業は基礎が中心だったため英語が苦手な私でも分かりやすく、日常の出来事や感じたことを発表することが多かったので、スピーキングと共に英語で文章を書くことへの抵抗感も軽くなったと思う。また、ニュージーランドにはマオリ独特の文化もあるため授業でマオリの歌を歌ったり、マオリの絵本を読んだりすることが多々あった。午後はニュープリマス市議会への訪問やWITT学生との交流、現地の小中学校訪問などのアクティビティが行われることも多かった。いずれも現地の人々はとても友好的に接して下さり、楽しく会話をすることができた。このような場で、相手の言っていることを理解したい、会話をしたいと思うことも語学の学習において大切だと感じた。現地滞在中、国内小旅行としてウェリントン、オークランドにも数日間ずつ滞在した。どちらも主要都市ということでニュープリマスとはまた違う空気を感じることができた。テパパ博物館、マオリビレッジ、バンジージャンプなど様々なところを訪れ満喫した。

私自身、海外へ行くのは今回が初めてであったため、出発前には不安もあった。しかし、多くの人達のおかげでとても素敵で、かけがえのない体験ができたことに感謝したい。ホストファミリーとの日々の生活、学校生活、そして国内旅行も、全てが大切な思い出になった。現地で得た、伝えたいという気持ちを忘れずに、今後も英語の学習を続けていきたいと思う。

WITT のキャンパス内にて

ホストファミリーと過ごした日々

国際教養学科
村上　優衣

今回、初めての海外で１ヶ月ホームステイするということで、出発前はとても不安であった。しかし実際に現地で生活をしてみると、充実した素晴らしい日々を送ることができた。

私のホストファミリーは計14名の大家族であったせいか毎日が賑やかで、終始笑いが絶えない家庭であった。到着直後はホストの話があまり理解できず、自分の英語力にも自信がなかったため、自ら積極的に話すことができなかった。しかし、ホストは私の言葉に常に耳を傾けてくれ、親しく接してくれたため、日が経つにつれて多く会話できるようになった。食事も全て美味しく、日本人の味覚に合っていたと思う。毎日、WITTから帰ると洗濯や夕食の手伝いをしたり、子供達と遊んだりして、退屈な日などなかった。子供達に鶴や手裏剣などの折り方を教えてあげたところ、日本の文化である折り紙に興味を持ってくれたことが嬉しかった。

言語の違う国で１ヶ月間過ごして、伝えようという気持ちがあれば語学力が少し足りなくても相手にはちゃんと伝わることを実感し、自分の英語力不足を感じながらも英語を話す自信はついた。１ヶ月という長いようで短い期間をホストファミリーと過ごして、もう一つの家族ができたようで嬉しかった。不安な部分もたくさんあったが、日本ではできない多くのことを経験し、楽しく充実した研修期間を過ごすことができた。多くの人々と出会えたこの研修での思い出を、これからも大切にしていきたいと思う。

富士山にそっくりなタラナキ山をバックに

教 員 の 交 流

ハワイ大学マリア・スチュアート助教授が来校

平成25年度国際関係学部の招へい教授として、ハワイ大学マノア校からマリア・スチュアート助教授が、平成25年５月31日㈮～６月11日㈫の12日間の日程で来校された。

ハワイ大学は、1907年に創設されたハワイ州立の総合大学で、教育と研究の両面で高い評価を受けており、世界各国から約20,000名の学生が学んでいる。日本大学と米国ハワイ大学マノア校との協定の歴史は長く、これまでも様々な取り組みを行ってきた。中でも食物栄養学科の学生を中心に実施している海外語学実習「ハワイ大学短期海外（語学）研修（UH Summer Seminar)」は、2010年からスタートして今年で４年目を迎えた。このプログラムにおいて、中心となって研修の授業及び実習を指導いただいているのがマリア・スチュアート助教授である。ハワイ大学において行われる授業等は、本学からの参加学生に理解しやすい授業や実習を毎回提供していただいており、学生から好評を得ている。

同助教授の来校中、短大及び専攻科学生、教職員を対象に、同助教授の最新の研究分野から、特別講義・実習等が行われた（下表参照)。全て英語による授業であったが、わかりやすく興味深い授業は、通訳等で授業を補佐した本学教員からも高い評価を得た。

日　　付	時限	講　義　内　容	対　象
平成25年６月３日㈪	4	人の栄養に関する最近の話題：食物繊維とフィトケミカル	専攻科１・２年生
平成25年６月４日㈫	4	アメリカの郷土料理	食物栄養学科１年生
平成25年６月６日㈭	1 2	１限：アメリカの伝統料理（講義） ２限：アメリカの伝統料理（実習）	専攻科１・２年生
平成25年６月７日㈮	2	米国と日本の食事摂取基準の比較	食物栄養学科２年生

同助教授の専門は、人の栄養に関する分野で、米国は勿論のこと、欧州各国の栄養教育および調理学に関する研究を進めている。さらに、ハワイ大学マノア校に赴任されて以来、ハワイ特有の食文化にも精通している。ご自身のご研究の中心となっている栄養成分摂取に関する研究、食品成分基準の米国と日本との違いなど、最新の情報をもとに食物栄養学科及び専攻科食物栄養専攻の全学生を対象に講義と実習が行われた。

同助教授は、ハワイ大学マノア校において米国における管理栄養士資格取得を目的とした教育の中心的な立場にある。初来日ということで、日本における栄養士・管理栄養士教育に高い関心を持たれ、本学教員に対しても様々な情報を提供いただいた。授業はもちろん、米国方式の調理学実習は、一日だけではあったがこれまでにない新たな試みとして、様々な面で受講学生のモチベーションが高まった。

スチュアート先生歓迎会（パノラマラウンジ）

授業風景（食物栄養学科２年生）

箱根の関所跡訪問

2014

COLLEGE OF INTERNATIONAL RELATIONS NIHON UNIVERSITY

日本大学国際関係学部　国際交流委員会